

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年		
210013	X-01-A-1-210013	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	基礎	選択	1年		
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース	基礎	選択	1年		
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	基礎	選択	1年		
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	基礎	選択	1年		
				【1年次生】経営情報学部経営学科	基礎	選択	1年		
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	基礎	選択	1年		
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	基礎	選択	1年		
				【2年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	基礎	選択	1年		
ワークショップ実践論 1	山田 裕史								

授業目的

共通科目「国際交流ファシリテーター演習1・2」が、ワークショップやファシリテーションといった新たな方法との「出会い」であるとすれば、本授業はその「応用」と「発展」を目指します。すなわち、「国際交流ファシリテーター演習1・2」があくまでも教員からきっかけを与えられて取り組む授業なのに対して、本授業は学生自らが問題意識に沿って、それぞれのワークショップの内容を深めることを目標とします。

問題の所在を自分たちで見つけ、その問題を解決するための方法も自主的に探究するという、新しい形式の授業です。学外講師の招聘に関しても、できるだけ履修者の要望を反映させます。

さらに本授業では、履修者が多種多様なワークショップを経験することにより、ワークショップの広範囲な技術を獲得することを目指します。

また、ディプロマポリシーとの関連では、本演習は国境を越えた個別具体的問題への認識を深める国際教養の体得に資するものと位置づけられます。

各回毎の授業内容

第1回 【授】イントロダクション：ワークショップとは？（授業の進め方と講義）、アイスブレイク、自己紹介 【前・後】【必要な時間：4時間】授業中に指示するワークショップに関する書籍を精読すること。	第9回 【授】グループワーク（前回のワークショップの振り返り） 【前・後】【必要な時間：4時間】授業中に指示するワークショップに関する書籍を精読すること。
第2回 【授】教員によるワークショップ（非暴カトレーニング） 【前・後】【必要な時間：4時間】授業中に指示するワークショップに関する書籍を精読すること。	第10回 【授】招聘講師によるワークショップ④ 【前・後】【必要な時間：4時間】授業中に指示するワークショップに関する書籍を精読すること。
第3回 【授】国際交流ファシリテーターによるワークショップ 【前・後】【必要な時間：4時間】授業中に指示するワークショップに関する書籍を精読すること。	第11回 【授】グループワーク（前回のワークショップの振り返り） 【前・後】【必要な時間：4時間】授業中に指示するワークショップに関する書籍を精読すること。
第4回 【授】招聘講師によるワークショップ① 【前・後】【必要な時間：4時間】授業中に指示するワークショップに関する書籍を精読すること。	第12回 【授】ワークショップづくり① 【前・後】【必要な時間：4時間】各グループでワークショップ作成の準備を進めること。
第5回 【授】グループワーク（前回のワークショップの振り返り） 【前・後】【必要な時間：4時間】授業中に指示するワークショップに関する書籍を精読すること。	第13回 【授】ワークショップづくり② 【前・後】【必要な時間：4時間】各グループでワークショップ作成の準備を進めること。
第6回 【授】招聘講師によるワークショップ② 【前・後】【必要な時間：4時間】授業中に指示するワークショップに関する書籍を精読すること。	第14回 【授】ワークショップ発表① 【前・後】【必要な時間：4時間】各グループでワークショップ作成の準備を進める、または振り返りを行うこと。
第7回 【授】グループワーク（前回のワークショップの振り返り） 【前・後】【必要な時間：4時間】授業中に指示するワークショップに関する書籍を精読すること。	第15回 【授】ワークショップ発表② 【前・後】【必要な時間：4時間】各グループでワークショップ作成の準備を進める、または振り返りを行うこと。
第8回 【授】招聘講師によるワークショップ③ 【前・後】【必要な時間：4時間】授業中に指示するワークショップに関する書籍を精読すること。	第16回

成績評価方法

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	強調・指導力	発表・表現	その他	評価割合(%)
定期試験							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							
成果発表（口頭・実技）							
演習							
その他							

出席、授業における各グループのパフォーマンス、グループ内での各個人のパフォーマンス、期末レポートによって評価します。

ワークショップに対するフィードバックとして、評価シートにもとづく講評を行います。

教科書参考書

中野民夫『ワークショップ 新しい学びと創造の場』岩波新書、2001年
 堀公俊『ファシリテーション入門』日本経済新聞出版社、2004年
 ロバート・チェンバース『参加型ワークショップ入門』明石書店、2004年
 ちよんせいこ『人やまちが元気になるファシリテーター入門講座』解放出版社、2007年
 その他の書籍は授業中に紹介します。

受講に当たっての留意事項

「国際交流ファシリテーター演習1」もしくは「同演習2」をすでに履修していることが望ましい。また、「ワークショップ実践論2」を履修していない国際交流ファシリテーターは、本授業を履修することを強く勧めます。
 自分でテーマを見つけ、リサーチをして、講師の話聞いて、それを自分たちのワークショップに生かします。そして、そこで学んだことをレポートにまとめます。積極的な学生の履修を期待します。

学習到達目標

本授業では、新たな知識の獲得や問題発見の技術を身につけるだけでなく、コミュニケーション能力及び実践的な学力の向上を目指します。

JABEE

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習